

令和3年度

「新潟市区自治協議会委員研修会」

の記録

新潟市市民生活部
市民協働課

目 次

- 1 開催概要 1
- 2 事例発表に係る質問に対する回答 2
- 3 研修振り返り（アンケート）結果 23

1 開催概要

【目的】

区自治協議会が、協働の要として地域の特色や実情を生かしたまちづくりや課題解決等に取り組めるよう、協働による地域課題の解決の重要性を学ぶとともに、運営改善及び活動促進に係る取組みを共有する研修会を実施するもの

【概要】

○開催日時・会場

- ・日時 令和3年12月9日(木) 14:30 ~ 16:00
- ・会場 黒崎市民会館 ホール(新潟市西区鳥原909番地1)

○参加方法

来場参加又はオンライン参加(Web会議サービスの「Zoom ミーティング」による参加)を選択

○プログラム

1 講演

- ・テーマ:協働による地域課題の解決の必要性和、それを踏まえた自治協に求められる役割 — 組織の合意形成と調整能力 —
- ・説明者:新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 教授 渡邊 敏文 様

2 運営改善、活動促進に関する事例発表

- ・発表者:秋葉区自治協議会 副会長 大貫 弘美 様
東区自治協議会 会長 後藤 岩奈 様

○参加者

- ・当日参加者 118名(うち、オンライン参加22名)

(区別内訳)

(人)

北 区	東 区	中央区	江南区	秋葉区	南 区	西 区	西蒲区	合 計
7(30)	20(30)	14(38)	14(30)	14(29)	10(30)	23(36)	16(30)	118(253)

※()内はR3.12.1時点の各区自治協議会委員数

2 事例発表に係る質問に対する回答

時間などの関係で、研修中にお答えできなかった事例発表に関する2つのご質問に対する回答を掲載します。

質問 1	<p>＜秋葉区への質問＞</p> <p>集合形式の会議は臨場感があるが、Web 会議の場合、意見の抽出などがスムーズにできるか疑問に思っているところがある。</p> <p>その辺について、ご自分で参加されて、どのような感触だったか？</p> <p>＜回答＞</p> <p>オンラインの参加者はなかなか発言がしづらいので、進行役の配慮が極めて重要です。話のポイントを明確にすることや、敢えて語りかけてみたり、質問や意見を促したり、チャットを活用してやりとりをしたりなどの工夫をしています。そうすることにより、オンライン参加者の実質的な参加が促されます。</p> <p>語りかけられても特に意見がないことも当然あると思いますが、それでもぎくしゃくした空気にならないような受け応えを心がけつつ、オンラインのよいところを活用していければと思います。</p>
質問 2	<p>＜東区への質問＞</p> <p>課題の抽出方法を教えてほしい。（どのように課題の抽出を行っているか？）</p> <p>＜回答＞</p> <ul style="list-style-type: none">○ 東区委員数及び部会人数について <p>東区の委員数は 30 人となっており、各部会人数は 10 人となっています。どの部会に所属するかは委員から希望を募り、希望が偏った場合に事務局にて調整しています。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 部会構成及び所管分野について <p>第 1 部会 所管分野：地域活動・市民活動、防犯・防災・交通安全など 第 2 部会 所管分野：福祉・子育て、教育・生涯学習、文化・スポーツなど 第 3 部会 所管分野：商工業・農業・観光、住環境、都市交通など</p>

質問2
(続き)

○ 課題の抽出について

以下については、第2部会の動きを参考に説明します(資料は次ページ以降に掲載)。

資料1より

- ・第6回(10/12開催)の第2部会にて示した令和3年度スケジュールです。

【第1回】

第7期までの振り返りと、第8期の進め方を共有。

第8期(令和3年度:調査・研究、令和4年度:事業実施)

【第2回】

第7期に実施した事業(福祉・子育て・教育に関する)を参考に、区健康福祉課より現状や課題について説明を受け、その後、2班に分かれて委員間でブレインストーミングを行い、討議しました。

- 資料2:第2回会議概要録

【第3回】

区教育支援センターより、現状や課題について説明を受け、その後、2班に分かれて委員間でブレインストーミングを行い、討議しました。

- 資料3:第3回会議概要録
- 資料4:委員間討議資料(たたき)

【第4回】

第2回・第3回の委員間討議を踏まえ、調査研究テーマの絞り込みを行いました。

- 資料5:第4回会議概要録
- 資料6-1・6-2:委員間討議資料(まとめ)

【第5回】

第4回の部会での議論を踏まえ、引き続き調査研究テーマの絞り込みを行いました。

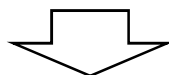
- 資料7:第5回会議概要録
- 資料8:委員間討議資料(まとめ)

テーマとしては、「子どもに関する地域課題」としたうえで、委員間討議の中で「子どもの居場所」について、東区自治協議会として何かしらの関りが持てないかとなったことから、現在、子ども食堂へのアンケートやインタビューを実施しています。

令和3年度自治協議会提案事業 地域課題に関する調査・研究について（福祉・教育・文化部門）

地域課題：子どもと地域との関わりが希薄になっている

調査研究のテーマ：地域で子どもを育てる”意識と、子ども食堂など地域の子どもの居場所支援について



「地域で育てる」意識
についての理解

子ども食堂の
現状・課題・ニーズ
の把握

当面のスケジュール（案）

回	月日	内容
第1回	4/27（火）	・部会長・副部会長の選出 ・第7期までの振り返りと第8期の進め方
第2回	5/11（火）	・関係課からの所管事務説明（区健康福祉課） ・地域課題等についての協議
第3回	6/8（火）	・関係課からの所管事務説明（区教育支援センター） ・地域課題等についての協議
第4回	7/13（火）	・テーマの絞り込み
第5回	8/10（火）	・テーマの絞り込み
第6回	10/12（火）	・令和4年度特色ある区づくり事業（区役所企画事業）について ・令和4年度自治協議会提案事業予算額について ・今後の進め方について
第7回	11/8（月）	・子どもの育ちと地域の関わりに関する学習会 新潟県立大学 小池由佳教授 講話、意見交換 ・子ども食堂へのインタビュー調査について（対象、分担、実施時期） ・次期区ビジョンまちづくり計画について
第8回	12/14（火）	・子ども食堂へのインタビュー調査について（調査内容） →12月後半に分担して実施
第9回	1/11（火）	・インタビュー調査のとりまとめとフィードバック
第10回	2/8（火）	・令和4年度の事業内容の検討
第11回	3/8（火）	・令和4年度の事業内容の検討 ・令和3年度の振り返り

第2部会【福祉・教育・文化部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：令和3年度 第2回 東区自治協議会 第2部会
- 日時：令和3年5月11日（火）午後3時～午後4時45分
- 場所：東区プラザ 音楽練習室1
- 出席者：大川委員、関根委員、佐藤（恵）委員、白井委員、田中委員、津野委員、長谷川（瑞）委員、山田委員
（欠席）川上委員、高橋委員
（事務局）地域課、健康福祉課、教育支援センター

【会議内容】

1 東区の現状及び取り組みについて

健康福祉課より、児童福祉に関する新潟市の現状と今後、市及び東区の子ども・子育て支援施策について説明がありました。

質疑応答では、主に以下のような意見がありました。

〔主な意見〕

- ・養育などに支援が必要な家庭の把握や、個別のケースに対する東区の連絡会議は、どのような体制でどのくらいの頻度で行われているのか。
- ・特にコロナ禍により、子育て家庭の孤立や孤独が強まっているように思う。
- ・親族のサポートや地域・近所のつながりがなく、子育ての方法や正しい情報が伝わらない面がある。

2 東区の地域課題について（福祉・教育・文化部門）

調査研究のテーマを選定するため、2班に分かれグループワークにより意見を出し、ホワイトボードを使って分類整理した後、全員で共有し、意見交換を行いました。

第2部会としては、当面、子どもに関する地域課題について考えていくこととし、来月の部会では、教育支援センターから現状や取組みを聞き、更に協議することとしました。

〔A班のまとめ〕

- ・子育ての支援やアドバイスを受けたい側としたい側で、方法や互いの状況が分からず、マッチングが難しい。
- ・子どもと多世代が交流する場や、地域・近所のつながりがなくなっている。

〔B班のまとめ〕

- ・子どもや家庭が、地域の活動や行事に関わる機会が少なくなっている。
- ・子ども会、PTA、その他講演会などに参加しない家庭が増え、コミュニケーションが取りにくくなっている。
- ・子どもの居場所や自由に活動できる場が少ない。

〔その他の意見〕

- ・インターネットやスマートフォンへの依存、SNSでのトラブルも心配。
- ・やる気のない子、自己決定ができない子が増えている印象。保護者が忙しく、子どもの考えや行動を見守る前に答えを出してしまうことも要因ではないか。

3 その他委員の選出

東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会委員として、山田委員を推薦することとしました。

【次回開催日】

日時：令和3年6月8日（火）午後3時～

会場：東区プラザ 音楽練習室1

第2部会【福祉・教育・文化部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：令和3年度 第3回 東区自治協議会 第2部会
- 日時：令和3年6月8日（火）午後3時～午後4時50分
- 場所：東区プラザ 音楽練習室1
- 出席者：大川委員、関根委員、川上委員、佐藤（恵）委員、白井委員、田中委員、津野委員、長谷川（瑞）委員、山田委員
（事務局）地域課、健康福祉課、教育支援センター

【会議内容】

1 東区の現状及び取り組みについて

東区教育支援センターより、新潟市が目指す教育と東区の学校教育課題について説明がありました。

2 東区の地域課題について（福祉・教育・文化部門）

調査研究のテーマを選定するため、2班に分かれグループワークにより意見を出し、ホワイトボードを使って分類整理した後、全員で共有し、意見交換を行いました。

来月は、テーマの選定に向け、これまでの意見を集約していくこととしました。

〔A班のまとめ〕

- ・子どもへのしつけや教育の前に、親世代がモラルや社会的マナーを守れていない。
- ・地域行事や世代間交流の場が少ない。
- ・経済的理由や周囲の雰囲気（競争心が低い）により、意欲的に学習することが難しい。

〔B班のまとめ〕

- ・園、学校、地域、関係機関の間での情報共有が難しい。
- ・心が満たされず、精神的に幼い子どもや、自分の気持ちを表現するのが苦手な子どもが増えているのではないか。
- ・子育てに対して、不安や孤立感が強くなっているのではないか。

〔その他の意見〕

- ・親の多忙や核家族化により、子どもが親や他の大人と会話する時間がなくなってきているように思う。
- ・特にひとり親家庭では、経済的にも時間的にも余裕がなく、子どもと向き合うことが難しい家庭が多いのではないか。
- ・父親の子どもや子育てへの関わりがまだまだ薄いのではないか。

3 東区歴史文化プロジェクト 東区内中学校文化部発表会について

事務局より企画案について説明がありました。昨年度、東区自治協議会提案事業「東区内中学校文化部発表会」を第2部会が企画・実施したことを踏まえ、区の事業実施に協力することとしました。

【次回開催日】

日時：令和3年7月13日（火）午後3時～

会場：東区プラザ 音楽練習室1

第2回第2部会（R3.5.11開催）での意見・まとめ
 児童福祉、子ども・子育て支援に関する地域課題について

<A班>

（支援を受けたい側としたい側がマッチしない）

誰にきいていいかわからない
 良いのか悪いのかわからない

- ・子育ての情報を得る場所が少ない
- ・子どもを産む上での不安
（保育園は大丈夫か）
- ・子どもの学習支援

- ・（地域の子育て家庭の）事情がよく分かっていない
- ・姿が見えない
- ・何をして欲しいか伝えてほしい
- ・遠慮なく頼んでほしい

支え合い、世代間交流

- ・思い通りにいかないことがあると、
迷惑をかけてし通そうとする
- ・やる気がない子が多い気がする
- ・貧困家庭が多く満足な食生活や教育
環境が整っていない
- ・特別支援学級が増えているが、個々
の対応が行き届かない

- ・自治会に子どもが少ない
- ・アパートが多く近所付き合いが少
ない
- ・地域と子どもの交流する場がない
- ・人間関係や社会とのつながりが希薄
- ・SNSトラブル、インターネットや
スマホの利用過多

コロナ禍 → 力が溜まっている、発散が必要
 ふれあいスクール
 こども創作活動館

<B班>

コミュニケーション

- ・ コミュニケーションを取りたがらない親
- ・ 親も子も決まった友達との関わりのみ（小さなコミュニティ）
- ・ P T Aに加入しない
（団体に所属したがない）
- ・ 保護者が講演会などの学習の場に参加しない

子どもの居場所

- ・ コロナ禍で子どもたちが自由に活動することができない
- ・ 子どもの居場所が少ない
- ・ 子どもの貧困
- ・ 孤食

支援

- ・ 支援が必要な子どもの発見難しい
- ・ 家庭内が見えない
- ・ 見守りが必要な子どもの支援の方法をどのようにしたらよいか
- ・ 保護者の多忙（仕事、その他）
- ・ 保護者の不安、心配が強い

地域とのかかわり

- ・ 親子一緒にやる前向きな活動が地域でも学校でも減っている
- ・ 子どもたちと地域の人と一緒にあってひとつのテーマを考える機会がない
- ・ 学校のボランティア活動などに子どもの参加が見られない
- ・ 学校行事などが保護者や地域にオープンになっていない
（参観も含めて）
- ・ 大人が気軽に声をかけられない
（子どもがそういう指導を受けている）

第2部会【福祉・教育・文化部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：令和3年度 第4回 東区自治協議会 第2部会
- 日時：令和3年7月13日（火）午後3時～午後4時30分
- 場所：東区プラザ 音楽練習室1
- 出席者：大川委員、関根委員、川上委員、佐藤（恵）委員、白井委員、田中委員、津野委員、長谷川（瑞）委員、山田委員
（事務局）地域課

【会議内容】

1 東区の地域課題について（福祉・教育・文化部門）

5、6月の部会で洗い出した子どもにかかる地域課題について集約・整理し、調査研究のテーマを絞り込みました。

〔意見集約の結果〕

課題：子どもと地域との関わりが希薄になっている



調査研究のテーマ：子ども食堂など地域での子どもの居場所のあり方について
“地域で育てる”意識や交流のあり方について

〔主な意見〕

- ・コロナ禍により、学校と地域、学校間の交流もなくなっているのではないかな。
子どもたちが学校での取組みを発表し共有できるような場があると良い。
- ・子ども目線での課題提示や提案があると良いのではないかな。
- ・昨年度第2部会で作成した中学生向けリーフレットの内容や配布場所を再検討するなど、昨年度の成果物の活用も考えてはどうか。
- ・with コロナの視点をふまえつつも、大勢の人が交流できるような方法の検討をしてはどうか。
- ・学校に協力をお願いするような事業を検討するのであれば、意向確認なども含め、先生方に負担をかけないように早めに調整を始めなくてはならない。

2 東区歴史文化プロジェクト 東区内中学校文化部発表会について

事務局より音楽部演奏会及び美術部等展示会の実施内容について説明がありました。8月6日（金）に開催される音楽部発表会の際、数名が運営スタッフとして協力することとしました。

【次回開催日】

- 日時：令和3年8月10日（火）午後3時～
- 会場：東区プラザ 音楽練習室1

子ども・子育て、教育等に関する地域課題について（委員意見の整理とまとめ）

地域で子どもを育て“よさ”は何だろう？
東区にいるからこそ経験できることはなんだろう？

地域

家庭

地域とのつながりが希薄

- ・自治会に子どもが少ない
- ・地域と子どもの交流する場がない
- ・親子一緒に活動が地域でも学校でも減っている
- ・子どもたちと地域の人と一緒に活動する機会がない
- ・学校や地域の活動などに子どもの参加がない
- ・学校行事などが保護者や地域にオープンになっていない
- ・地域行事に子どもの参加が少ない

コミュニケーションが取りにくい

- ・コミュニケーションを取りたがらない
- ・放課後や休日に友達同士で外で遊ぶ姿を見かけない
- ・人間関係や社会とのつながりが希薄
- ・親も子も決まった友達との関わりのみ
- ・コミュニティの狭さ

- ・PTAに加入しない（団体に所属したくない）
- ・保護者が講演会などの学習の場に参加しない

- ・地域の人（特に高齢者）が神経質になりすぎている
- ・大人が気軽に声をかけられない
- ・アパートが多く近所付き合いが少ない

家庭の子育て力・教育力が低い

- ・親世代がモラルや社会的マナーを守れていない
- ・あいさつをしない
- ・子どもと向き合えない親
- ・子どものしつけ、怒り方
- ・親の目が届いていない

- ・子育てに対する自信のなさ
- ・良いのか悪いのか分からない
- ・子どもを産む上での不安
- ・保護者の不安、心配が強い
- ・転勤族の親の孤独
- ・相談する人がいない
- ・誰にきいていいか分からない
- ・保護者のレスパイトはできているか

保護者の不安、孤立

情報が不足している、分からない

- ・子育ての情報を得る場所が少ない
- ・情報がありすぎて、自分にあつた情報が分からない

安心してすごせる子どもの居場所が少ない

- ・中学校などで部活に入っていない生徒の受け皿がほとんどない
- ・中高生など、ある程度大きくなった子たちへの支援、居場所
- ・コロナ禍で子どもたちが自由に活動することができない
- ・子ども食堂
- ・孤食

みんな忙しくゆとりがない

- ・保護者の多忙（仕事、その他）
- ・子どもの多忙（塾、習い事）
- ・先生の多忙

育てにくい・困った特徴や傾向の子どもが増えている？

- ・自己中心的、マイペースな子が多い
- ・小学生になっても幼く、赤ちゃんのような子が増えている
- ・大人に話をきいてほしい、自慢したがる子どもが多い
- ・指示が通らない子どもが多い
- ・心の言葉を声に出せない子
- ・思い通りにいかないことがあると、迷惑をかけてし通そうとする
- ・やる気がない子が多い気がする
- ・SNSトラブル、インターネットやスマホの利用過多

経済的に苦しい家庭も多い

- ・満足な食生活や教育環境が整っていない
- ・子どもの貧困
- ・子どもの学習支援
- ・ひとり親の経済的負担

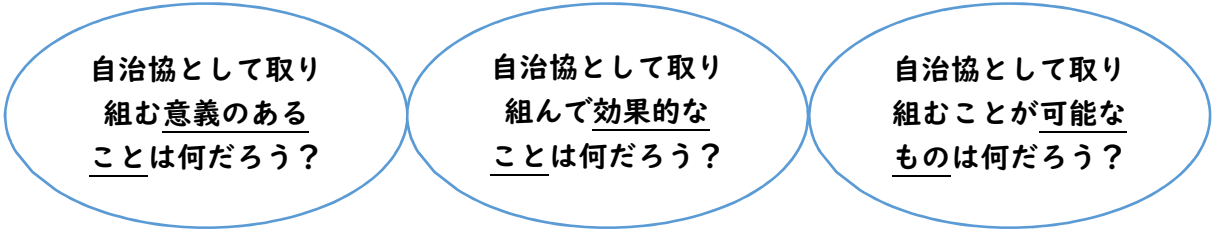
学習環境が整っていない家庭も多い

- ・学習意欲が低い
- ・競争心が低い
- ・大学進学率が低い
- ・経済的に苦しく学習できる環境が整っていない
- ・学力に対しての親の考えが甘いのではないか

子ども

調査研究テーマ（課題解決を目指すテーマ）について

<視 点>



<課 題 ①>

が という現状が課題であり、

<目指す姿 ①>

どうなれば Happy か

その課題を解決し という姿（目標）に
寄与する事業を実施するために調査研究を進めていきます

<課 題 ②>

が という現状が課題であり、

<目指す姿 ②>

その課題を解決し という姿（目標）に
寄与する事業を実施するために調査研究を進めていきます

<参考>

(1)「東区ビジョンまちづくり計画」

◆区の将来像

豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、
笑顔と元気があふれる、空港と港があるまち

◆目指す区のすがた

- I 心地よく暮らしやすいまち
- II 人が育つまち
- III 地域の力が活かされるまち
- IV 魅力あふれるまち

(2)新潟市子ども・子育て支援事業計画 新・すこやか未来アクションプラン第2期計画

◆基本理念

子ども・家庭・地域 に笑顔があふれるまち にいがた

◆施策方針

- 1 子どものすこやかな育ちを守り、支える
- 2 子育て家庭の暮らしと安心を支える
- 3 すべての人々が子どもと子育てに関わり、連携して支える

(3)新潟市教育ビジョン

◆中心的な考え方のテーマ

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成
～学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり～

第2部会【福祉・教育・文化部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名称：令和3年度 第5回 東区自治協議会 第2部会
- 日時：令和3年8月10日（火）午後3時～午後4時30分
- 場所：東区プラザ 音楽練習室1
- 出席者：関根委員、川上委員、白井委員、田中委員、津野委員、
長谷川（瑞）委員、山田委員
（欠席）大川委員、佐藤（恵）委員
（事務局）地域課、教育支援センター

【会議内容】

1 東区の地域課題について（福祉・教育・文化部門）

5、6月の部会で絞り込んだ子どもにかかる地域課題について、調査研究視点や今後の進め方について協議しました。

“地域の子どもは地域で育てる”という考え方について理解を深めていくとともに、子ども食堂を対象として、自治協議会としてどのような支援ができるのかを研究していくこととしました。

〔主な意見〕

- ・子ども食堂は、担い手・運営経費・広報・物資支援の枠組みなど、研究する課題は多くの面があると思う。
- ・子ども食堂の運営側だけでなく、利用者側の意識調査なども必要ではないか。
- ・子ども食堂は、食事提供だけでなく、孤食の解消や、居場所や交流の場としての役割もある。運営についての支援だけでなく、そのような面からの支援も考えられるのではないか。
- ・調査などを検討していくうえで、ゼロからアンケートなどを設計するのは難しいので、過去に実施された調査などを参考に、東区内の対象者に実施することとしてはどうか。

【次回開催日】

日時：令和3年9月15日（水）午2時～

会場：東区プラザ 講座室1

* 新潟県立大学 小池 由佳教授を講師に迎え、「子どもの育ちと地域の関わりについて」講話と意見交換会を開催予定

東区の地域課題について（福祉・教育・文化部門）

地域課題：子どもと地域との関わりが希薄になっている

<具体的には？>

- ・ 地域に子どもが集える場、過ごせる場がない
※ 子どもへの食事提供から、孤食の解消、食育、更には地域交流の場などの役割を果たしている子ども食堂だが、運営に課題を抱えるところが多い
- ・ 地域住民と子どもや家庭、学校が交流できる機会がない
※ 子どもたちが活動を地域に向けて発表できる機会がない

調査研究のテーマ：子ども食堂など地域での子どもの居場所のあり方について
“地域で育てる”意識や交流のあり方について

(1) 「子ども食堂」に関する調査・研究

- ① 運営者、関係者、識者から話をきく
(部会での講話、連絡会議の傍聴、現地視察など)
- ② 統計、近年新潟市や他都市で実施した調査、アンケートの分析
- ③ 運営者や利用者へのアンケート(ニーズ調査)、ヒアリング調査
- ④ 先進事例の研究

⇒ 現 状
課 題
ニーズ
の把握

⇒ 実施事業の検討

(2) 「地域で育てる意識」に関する調査・研究

- ① 「地域で育てる」とは何か？ → 議論と定義
- ② 子どもの居場所の関係者や識者から話をきく
(部会での講話、現地視察など)
- ③ 近年、新潟市や他都市で実施した調査、アンケートの分析

⇒ 「地域で育てる」意識
についての理解

⇒ 実施事業へどのように
反映していくか

(3) 「交流のあり方」に関する調査・研究

- ① 現在、交流の機会がないのはなぜか？ → 議論と定義
- ② 理想とする「交流のあり方」は何か？
- ③ 対象者(子ども、家庭、地域)や関係者(学校、地域、行政)
へのニーズ調査、ヒアリング調査
- ④ 先進事例の研究

⇒ 現 状
課 題
ニーズ
の把握

⇒ 実施事業の検討

* キーワード ~7月部会での発言から~

地域や企業の参画

学習支援や
子育て支援を含めた
居場所

地域人材の活用

子どもからみた
地域の課題は？大勢の人と関わることが
子どもの育ちに大切

With コロナの視点

効果的な
情報発信は？

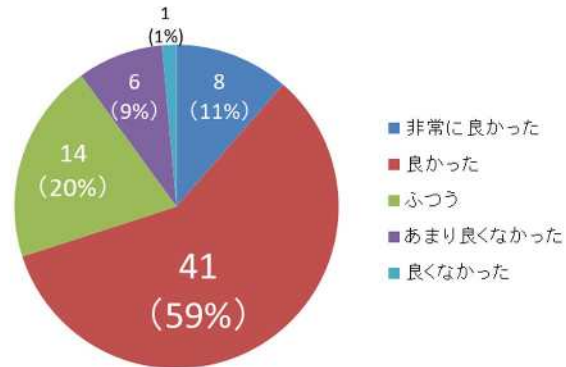
3 研修振り返り（アンケート）結果

回収率：60.2%（回答者数 71 名）

本日の研修会の内容はいかがでしたか？（回答数 70 件）

・非常に良かった	8 件 (11%)
・良かった	41 件 (59%)
・ふつう	14 件 (20%)
・あまり良くなかった	6 件 (9%)
・良くなかった	1 件 (1%)

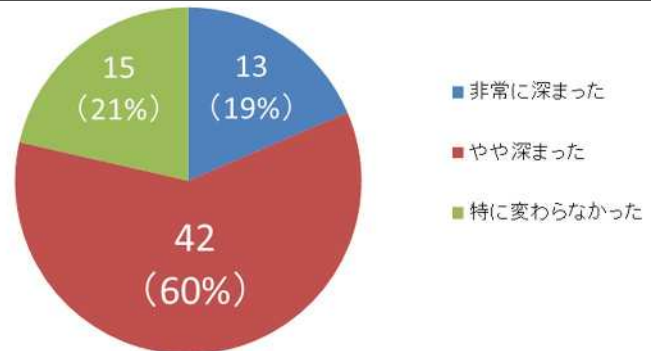
約 7 割が「非常に良かった」又は「良かった」と回答



研修会参加前と比べ、区自治協議会の役割に対する理解は深まりましたか？（回答数 70 件）

・非常に深まった	13 件 (19%)
・やや深まった	42 件 (60%)
・特に変わらなかった	15 件 (21%)

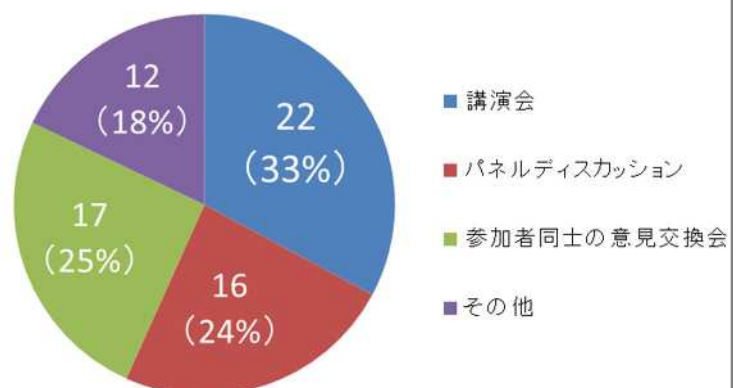
約 8 割が「非常に深まった」又は「やや深まった」と回答



研修会はどのような形式が望ましいですか。（回答数 67 件）

・講演会	22 件 (33%)
・パネルディスカッション	16 件 (24%)
・参加者同士の意見交換会	17 件 (25%)
・その他	12 件 (18%)

約 3 割が「講演会」と回答



【その他の内容】

- ・講演会と参加者同士の意見交換会
- ・講演会と 8 区自治協の取組みの事例発表
- ・パネルディスカッションと参加者同士の意見交換会

今後の研修会で、取り扱って欲しいテーマ・内容はありますか。

(回答数 53 件)

【主な希望テーマ】

〈自治協全般〉

- 他区自治協の活動や会議の持ち方等の情報共有
- 自治協に興味を持ってもらえるような広報と、区民ニーズや地域課題を把握する方法（専門機関における調査の手法や専門機関への依頼方法）
- 自治協で議論した内容等を地域にフィードバックする方法
- 自治協のあり方（存在意義）
- 自治協と市（区）の円滑な協働
- デジタル化を含めたコロナ禍における自治協会議の持ち方、委員間のコミュニケーションを深める工夫など
- 高齢化、過疎化が進んでいる社会において、自治協が行政と一体感を持って「地域づくり」するために必要な住民パワーの育成について

〈地域活動全般〉

- 学校等の多様な主体と連携した地域活動の事例
- 地域活動における個人情報の取扱い
- 地域の担い手育成（コミ協、自治会・町内会、民生委員・児童委員等）
- 地域住民への活動周知と活動参加への方策
- 誰もが孤立しない地域づくりについて（お隣同士、地域同士がつながるような活動）
- 地域課題の解決、地域の活性化について（先進地域の事例紹介と解決方法、防災防犯、福祉、環境、空き家対策、公共交通、子育て支援等）

〈その他〉

- SDGs の取組み

【主な意見】

＜講演、事例発表を受けて＞

- ・活動基盤とされる地域課題の把握やニーズ分析のシステムが自治協の活動に組み込まれることの必要性や、自治協の役割・位置づけの再認識の重要性を感じました。そのモデル例として、提案事業についても東区の工夫のように、根本的にあり方を再検討してプロセスを立て直すことは画期的で参考になりました。
- ・地域の方々が不安に思っていることにもっと関心を持たなくてはならない。
- ・Web 会議への対応が必要である。
- ・自治協の認知度の低さがデータで示され、ショックではあるが納得もある。なお働きかけが必要と感じた。
- ・漫然と活動するのではなく、根拠に基づいて、目的意識を持ち、行動することを再認識できた。
- ・現自治協のあり方の説明を受けただけの講演で、新しい気づきはありませんでした。
- ・講演内容はかなり学問的で理解しにくかった。むしろ2区の実例発表（オンライン参加について）に興味のある部分があった。
- ・今後の研修会は、地域事情を加味した、具体的な課題解決に向けた内容が委員の使命感と意識改革につながる。自治協の役割と地域発展に意識を持つ委員の人材育成が必要である。
- ・人それぞれが持っている考えを引き出し、相互に調整することの大切さを感じました。
- ・協働という手法によりお互いの資源（人材・物資・情報）や能力を出し合うことができ、地域が抱える課題を解決につなげられる。
- ・今まで自治協の役割や、立ち位置がうまく理解できていませんでした。
- ・それぞれの地域の特性にあった課題の探り方や解決に向けた手段のヒントがあったように思います。

＜オンライン参加をしてみて＞

- ・オンライン形式の研修会の運営の難しさ。
- ・オンラインで参加したが、音声が非常に聞き取りにくく、内容を理解することが難しかった。

＜その他＞

- ・座席を一つおきにするなど、新型コロナの感染拡大防止対策に細心の留意が施されており良かったと思う。
- ・会場に集まっても顔や名前が知れないため、各区自治協委員との意見交換があった方が良かった。
- ・各区に共通する課題及び共有できれば、効率化できると思いました。

研修会での気づきを、今後の自治協運営や活動などにどう生かしていきたいですか。（回答数 58 件）

【主な意見】

- 東区自治協提案事業の実施方法の工夫を参考に、もう少しプロセスを重視した事業実施につなげていけたらと思う。
- 現状、協議会の場は、区から提出される文書の説明と受動的と思われる審議が大半である。ワークショップなどを活用し、重要案件については委員間の議論を活発化する工夫が必要であり、同様に、協議会として独自の課題を選定し、議論を深める場を見出したい。
- 地域住民との連携において、出身母体のコミ協をはじめ、地域住民との関わりの深い民生委員や児童委員、地区社協との連携も図っていく。
- 区がより良くなるための課題は、個々の地域の課題と類似する内容が多く、地域活動の題材として参考にできる。コミ協で何を事業活動の軸にするか、少子高齢化が加速する中、既存の事業では先行き停滞する。今何が求められているのか参考にさせていただき、3年、5年先の事業の方向性を見出したい。
- 自治協運営について、退任委員に就任中の気づいた点や、今後の運営、あり方等のアンケートをとり、実態に即した運営が望ましい。（過去にとらわれすぎている）
- 単年で結果を求めるのではなく、しっかり見極め確実に成果あるものにする必要がある。委員全員が参加、思考し行動する（選出された者として、手を挙げた者としての自覚が必要）
- 区民ニーズに沿った自治協の活動となれば興味を持ってもらえると感じた。
- 区民が望んでいる地域の活性化をはじめ、区が良くなるための課題について優先順位をつけ検討していく。そして、具体的な自治協活動の取り組み状況や結果を広報等で市民に周知を図っていく。
- 自治協で話し合われたことを極力丁寧にコミ協にも伝わるようにしていく。
- 地域の現状、地域課題や地域の特色、魅力等について意見交換を行い、それぞれの特性を生かし、高いレベルでの解決が期待できる。
- 各地域で超高齢が進み、近所と付き合うことも少なく、今後は自治会及びコミュニティと連動し活動していく必要性を感じます。
- まずは今回の研修で提示されたような、協働による自治協のあり方や役割について各委員や自治体との共通認識・合意形成が必要。提案事業企画のあり方・プロセスについても再検討・再構築について時間をとって話し合うことを始めたい。
- 委員だけではなく、広く地域の意見や課題を集め内容を選定して取り組む課題を決める必要を感じた。その手法、検証などを行う時間の確保と工夫をしたい。
- 毎回膨大になる会議資料をデジタル化し、区役所職員の発送の手間や、保存する委員の負担軽減に役立つような方法を取り入れるよう進言したい。
- Web 会議に参加できるようスキルアップする。